令和２年度　栃木市教育研究所　研究所員研修会　研究記録カード

１　部会名	授業づくり部会　　部　　会		
２　研究員所員 ◆：代表者	◆ 野口　恭平（南小） ・老沼　晃子（部屋小） ・馬場　絢（岩舟小）	・松井　稔（栃木南中） ・渡部　智裕（都賀中）	事務所員 ・手塚　浩史 ・石川　慎太郎

３　研究テーマ

『振り返り』を活用することで、すべての子どもが「できた！」「わかった！」を実感できる授業づくりができる。

４　研究の取組

（１）研究内容

〈仮説〉（昨年度までの研究結果を受けて）
①『振り返り』をすることで、子どもたちの授業への意欲を高めることができる。
②『振り返り』をすることで、前後の授業を繋ぐ役割を果たし、繋がりのある授業を展開できる。
③『振り返り』をすることで、どの児童・生徒も参加できる環境ができる。

〈方法〉
『振り返り』を活用した授業を各々の先生が展開・記録し、その実践記録を共有することで「できた」「わかった」に繋がる振り返りの在り方の共通項を見出す。（振り返りの方法だけでなく、振り返りが効果的に機能する〈状況・環境・前提条件〉についても考察する）

（２）研究計画

月　日	研修内容	月　日	研修内容
8月12日	研究テーマ・内容の協議、計画作成	12月3日	実践共有
	野口先生・渡部先生の実践		実践のまとめ
10月2日	実践共有		
	老沼先生・松井先生の実践	2月19日	２年次経過報告提出

５　研究の成果と課題

【成果】
・『振り返り』についての研究結果として「生徒の自己理解を深める振り返り」、「教師の生徒理解を深める振り返り」、「子ども―子ども間を繋ぐ振り返り」という、『振り返り』を行う効果と意義を見出すことができた。
・『振り返り』を行うことで、教師、子ども、教師ー子ども間、子ども―子ども間、それぞれによい影響を与え、〈よい授業〉につながることが示唆された。
【課題】
・『振り返り』の意義については明らかになったが、『具体的な方法』についてはまだ研究が必要である。例えば、先生方が実践しやすいように、「どのような授業」の時は、「どのような振り返り」が効果的なのかを明らかにすることなどである。

６　さらに研究していきたいこと・次年度の構想

〇　先生方が実践しやすいように、効果的な『振り返り』の具体的な方法を明らかにする。
・『振り返り』の種類（自由記述・選択記述・類似問題など）と授業形式をパターン化
・『振り返り』用紙の作成、共有化
・『振り返り』を書く際の声かけ
・『振り返り』を児童生徒の学習改善や教師の授業改善に生かす手立て